

特定非営利活動法人ジャパンハート

2024年度 通常総会

議 事 次 第

1. 日時: 2024年6月21日(金) 18:00~20:00
2. 開会・進行 理事長 吉岡春菜
事務局長 佐藤 抄
3. 理事長挨拶 吉岡春菜理事長
4. 議長選出 出席正会員の中から選出(定款第24条)
5. 定足数の確認 (定款第25条)
6. 議事録署名人の選任 2名 (定款第28条)
7. 議事 議長
第1号議案 2023年度事業報告の件
第2号議案 2023年度決算報告の件
監査報告
第3号議案 2024年事業計画(案)審議の件
第4号議案 2024年予算(案)審議の件
第5号議案 役員改選の件
8. 閉会 議長

第1号議案

2023 年度事業報告

I 組織活動状況

1. 通常総会

日時:2023年6月18日(日)13:00~15:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事: 理事長 吉岡春菜

事務局長 佐藤 抄

第1号議案 2022 年度事業報告の件

第2号議案 2022 年度決算報告の件

監査報告

第3号議案 2023 年事業計画(案)審議の件

第4号議案 2023 年予算(案)審議の件

第5号議案 役員改選の件

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会

(1) 第1回理事会

日時:2023年(令和5年)4月27日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 経営者ツアーについて

第2号議案 月次共有(事業、広報、組織)

第3号議案 国内寄付獲得状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2) 第2回理事会

日時:2023年(令和5年)5月25日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)

第2号議案 国内寄付獲得状況について

第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達スケジュールについて

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3) 第3回理事会

日時:2023年(令和5年)6月20日(火) 14:00~14:10

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

・理事長、副理事長の選定について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4) 第4回理事会

日時:2023年(令和5年)7月27日(木)9:00~10:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
第2号議案 国内寄付獲得状況について
第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5) 第5回理事会

日時:2023年(令和5年)8月24日(木)9:00~10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
第2号議案 国内寄付獲得状況について
第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6) 第6回理事会

日時:2023年(令和5年)9月28日(木)9:00~10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
第2号議案 国内寄付獲得状況について
第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7) 第7回理事会

日時:2023年(令和5年)10月26日(木)9:00~10:00
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
第2号議案 国内寄付獲得状況及び、23年度の修正収支予想について
第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8) 第8回理事会

日時:2023年(令和5年)11月21日(火)17:30~18:30
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
第2号議案 国内寄付獲得状況について
第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9) 第9回理事会

日時:2023年(令和5年)12月21日(木)8:30~9:30
場所:オンライン上(zoom を用いて開催)
議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)

第2号議案 国内寄付獲得状況について
 第3号議案 カンボジア新病院プロジェクトに関する資金調達について
 第4号議案 医療マネジメントスタッフの給与テーブル新設について
 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10) 第10回理事会

日時:2024年(令和6年)1月25日(木)8:30~9:30
 場所:オンライン上(zoomを用いて開催)
 議事:(議長 吉岡春菜理事長)
 第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
 第2号議案 国内寄付獲得状況について
 第3号議案 能登地震支援活動について
 第4号議案 24年度からの給与テーブル並びに、評価制度の導入について
 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11) 第11回理事会

日時:2024年(令和6年)2月15日(木)8:30~9:30
 場所:オンライン上(zoomを用いて開催)
 議事:(議長 吉岡春菜理事長)
 第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
 第2号議案 国内寄付獲得状況について
 第3号議案 能登地震支援活動について
 上記議案について審議され、異議なく承認された。

(12)第12回理事会

日時:2024年(令和6年)3月28日(木)8:30~9:30
 場所:オンライン上(zoomを用いて開催)
 議事:(議長 吉岡春菜理事長)
 第1号議案 月次共有(事業、広報、組織)
 第2号議案 国内寄付獲得状況について
 第3号議案 能登地震支援活動について
 第4号議案 令和6年度(2024年度)予算(案)について
 上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況

2024年4月1日現在の会員数

		2023年4月1日現在	2024年4月1日現在
正会員	医療者	303人	298人
	一般	172人	167人
	学生	6人	7人
	法人	50社	49社
正会員合計		531人・社	521人・社
賛助会員	個人・法人	276・社	249人・社

4. 事務局

(1)2024年4月1日現在の事務局体制

◇東京事務局(本部) 事務局長以下の正職員 21名+契約職員+パートタイム・経理顧問

事務局長 :佐藤 抄(COO)
事務職員 :杉山 智哉(管理本部長 / CAO)
高橋 茉莉子(災害対策・支援プロジェクトセクションリーダー)
吉岡 春菜(スマイルスマイルプロジェクトセクションリーダー)
伊藤 和子(スマイルスマイルプロジェクトセクション)
山田 友恵(スマイルスマイルプロジェクトセクション)
高橋 萌(スマイルスマイルプロジェクトセクション)
川原 沙菜(スマイルスマイルプロジェクトセクション)
岩田 剛(管理セクションリーダー / 経理担当)
飛田 智子(カスタマーリレーションセクション /
管理セクション 海外総務担当)
吉浦 ゆず香(管理セクション 吉岡秀人秘書)
皆川 夏子(マーケティンググループリーダー / 営業担当)
横山 菜々子(マーケティンググループ マーケティング担当)
岸 美貴子 (マーケティンググループ WEB 担当)
渡辺 彬衣(マーケティンググループ 営業担当)
中山 佳子(マーケティンググループ 営業担当)
川根 ひろみ(マーケティンググループ 営業担当)
上村 可南子(マーケティンググループ メディア担当)
松本 愛(マーケティンググループ メディア担当)
鈴木 知美(メディカルヒューマンリソースセクションリーダー)
伊藤 千晶(メディカルヒューマンリソースセクション)
武内 三恵(メディカルヒューマンリソースセクション)

POE SHWE SIN OO(海外事業セクション 契約職員)

石毛 宏一(経理顧問)
気賀 紫都佳(カスタマーリレーションセクション /
支援者サービス担当パートタイム)
竹川 祐子(管理セクション 労務担当パートタイム)
二瓶 香南(海外事業セクション パートタイム)

◇ミャンマーオフィス

佐藤 抄(オフィスマネージャー)
河野 朋子(専門医療活動事業担当者)
那須田 玲菜(DreamTrain 事業担当者)

他スタッフ 71 名

◇カンボジアオフィス

佐藤 抄(オフィスマネージャー)
神白 麻衣子(CMEO / ジャパンハートこども医療センター院長)
藤井 祐美子(看護部長)
鱈川 音寧(看護師)
小林 裕二(プロジェクトメンバー)
大江 隼人(プロジェクトメンバー / メディカルエンジニア)

他スタッフ 103 名

◇ラオスオフィス

松原 遼子(オフィスマネージャー代理)
高柳 玲香(医療活動責任者)

他スタッフ 5 名

(2)組織・経営戦略・管理部門に関する事項

■人事・採用

・採用ブランディング

ブランディング業者と連携し、採用ブランディングを実施。コンセプトとテーマ感を定めた後、採用専用サイトを新たにローンチ。また、Instagram でも採用情報専用のアカウントをオープンし、広報活動に力を入れた。

・組織図の刷新

1人1人が考えて行動できる、自立型組織によりなっていくために、組織図を刷新。2024年度に本格変更を行うために、2023年度下半期ではその第1段階の変更を実施。組織を、事業・広報・管理の3つに分けることを行った。

・人事評価制度の設計

職員のパフォーマンスを正しく評価し、待遇に反映させるべく、人事評価制度の導入を決定。2024年度の運用開始に向けた設計に力を入れた。

・新卒採用

2025年3月卒の新卒採用活動を実施。選考を進め、1名が内々定。

■経理・財務

・前年比収益増

今年度の受取寄付金は9億9千万円(前年比2億4千万円増)、受取助成金は8千万円(前年比5千万円増)、昨年発生したコロナ対策医療用防具代9千万円は今年度発生せず、主にこの三つの要素により経常増減額は前年度の2億円の黒字に比べ、4億円余上回る6億2千万円の黒字。現金預金残高は、アジア小児医療センターの建設に大いに寄与するものと期待している。

・クラウド会計ソフトへの移行、活用等

銀行データからの自動取込や自動仕分、また経費精算ソフトからデータ取込を行うことで、仕訳の入力負担及び入力ミスを軽減し、経理業務の効率化に繋がった。

■組織・労務

・全体会、全体交流会の実施

団体のビジョン・ミッション・バリューの浸透および事業間の職員のコミュニケーションの円滑化を目的に行っていた全体会を継続して実施。事業の進捗報告や部署目標の共有を目的とする「全体会」では、吉岡秀人最高顧問からお話頂く時間を導入し、内部で働くメンバーに対するジャパンハートマインドの醸成を行った。

・社内報の発刊

組織内で働くスタッフのロイヤリティ向上を目的に、社内報を発刊。各回2名のスタッフにインタビューを行い、それぞれが何を目標として働いているのかや、普段は知り得ない想いや経歴についても共有。団体内の結束を高めることにも寄与した。

II 事業活動状況 / 海外

海外事業本部

1. 事業推進

- ・海外事業全体における中長期計画の再策定を実施。
 - ・カンボジア:新病院建設及び、開院に向けた事業進行や、支援企業獲得などの各種調整。
 - ・ミャンマー:ミャンマー国内情勢を考慮しながらの医療活動の展開
 - ・ラオス:甲状腺疾患プロジェクト第2フェーズ、小児新プロジェクト開始に向けた伴走支援
- ※ボランティア医療従事者のリクルート活動に関しては、専門部署(MHR)を設置し、移管した。

2. 海外での資金調達

- ・既存運用中の海外用寄付獲得システムの運用整備をし、現在の寄付者数対比 120%を獲得を目指す。
- ・海外での従業員寄付プラットフォームシステムの登録とアクティブ化を行い、持続的な寄付金を獲得できるよう体制を整えた
- ・「UN NCD Task Force Award 2024」応募
- ・日本以外の国での資金調達計画について調査活動

ミャンマー

1. 医療活動

1) ワツチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・ワツチェ慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を含む医療活動を実施した。
- ・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上を目指し、日本およびカンボジアでの超音波検査・麻酔・小児がん看護のトレーニングを実施した。
- ・2023年12月に、来院患者の増加を目指して Rainbow Bridge Clinic 移転を実施した。
- ・医療アクセスの向上を目指し、モバイルクリニック(遠隔地往診)をミャンマー各地で9回にわたって実施した。

2) その他の医療活動

- ・コロナおよびクーデターにより中断していた、ミャンマー専門医療事業を再開した。
- ・ヤンゴン子ども病院での専門医療活動を再開し、3回(2023年6月・12月・2024年1月)に渡って日本人小児外科医を派遣して肝胆道系疾患や小児がん等の手術を実施した。
- ・ヤンキン子ども病院での小児心臓病サポート事業を立ち上げ、2023年12月に日本人小児循環器専門医を派遣して心臓カテーテル治療を実施した。
- ・口唇口蓋裂総合治療事業として、現地口腔外科医に対する口唇裂・口蓋裂の手術技術指導を実施した。
- ・ミャンマー国内の国公立病院3カ所において、現地の口腔外科医との協力のもとで口唇口蓋裂の子どもに対する手術活動を実施した。

2. ミャンマー医療人育成事業

引き続き新倉会の協力により、奨学生6名(医学生3名・看護学生3名)に支援を行なった。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・ヤンゴン管区・カチン州・シャン州・エーヤワディー地方域より、新規児童 25 名を受け入れた。
2024 年 3 月末時点での在籍人数は合計 113 名である。
- ・DT 施設運営委員会(生徒会)を発足し、児童らが中心となって施設ルールの改訂やイベント運営を行なった
- ・学校の長期休暇に限らず、年間を通じて情操教育プログラム・STEAM 教育・Well Being アクティビティを実施した。
- ・奨学生として、合計 21 名の児童が私立学校 2 校に入学した。
- ・2023 年 11 月、施設代表者 4 名が愛知県阿久比町を訪問し、日本の公立学校に体験入学した。
- ・2024 年 2 月、コロナ禍以降初となる、日本からの長期日本語講師ボランティア 1 名の受け入れを行なった。

2) ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1 年間の医療マッサージトレーニングプログラムを実施し、8 名が医療マッサージ師の資格を取得した。
- ・2024 年 1 月、日本人専門家を招いての特別講義を実施した。

3) サイクロン孤児支援活動

- ・8 名の子どもの状況に合わせた学費・医療費の支援を実施し、そのうちの 5 名が就職に伴い支援終了となった。

カンボジア

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター

2023 年度は新病院に向けた患者数増加、医療者の育成、人員獲得を促進した。

年間外来者数

・成人 20,132 人(昨対比 121.5%)、小児 3,859(昨対比 117.9%)と昨年度を大きく上回った。インフルエンサーによる拡散やカンボジア国内での新病院建設のリリースもあり、患者数は増えたが、小児外来患者数に関しては目標の 5,000 名には未達(達成率 77.18%)となった。

年間手術件数

・成人 1,022 人(昨対比 121.1%)、小児 324 人(昨対比 122.7%)と昨年度を大きく上回った。短期ボランティアや認定医の先生方の受け入れも増えた。また、2023 年度にはカンボジア人だけで腎芽腫の摘出手術を行うことができるなど、現地スタッフの成長により安定的に手術が行えるようになりつつある。

年間入院件数

・成人 1,150 人(昨対比 106.0%)、小児 278 人(昨対比 109.0%)と昨年度を上回った。また、小児がん患者入院数は 101 人(昨対比 89.3%)であった。昨年度はプノンペンで最大のチャリティ病院にて固形腫瘍の治療が開始したこともあり、ジャパンハートこども医療センターへの患者紹介が減少した。一時は入院中の小児がん患者が大幅に減少することもあったが、現在は入院患者数も前年同等水準に戻ってきた。

医療者の採用と定着

・新病院を見据え、カンボジア人看護師の採用に注力した。2023年3月31日は34人でしたが、2024年3月時には44人まで看護師数を増やすことに成功した。退職が相次いだ22年度と比較し、看護師の離職は4名(昨対比25%)に抑えることができ、前年度は14名のカンボジア人看護師の採用に成功した。

・また、医師に関しても2023年3月31日の10人から24年3月31日には15人まで増加させた。また、カンボジア人がカンボジア人を指導する体制を整備することで、医師の先輩後輩関係を構築し、強固なチーム作りを促進している。

2)提携病院での活動

・2023年度はチア・ソパラ国土交通省元大臣から依頼を受け、支援を続けていたトボンクムン州にあるクロッチュマー病院での吉岡ミッションを実施した。また、活動と並行し、モバイル活動の目的の見直しを行った。今後は医療の届かない地域での医療課題を解決するために、より地方の医療拠点の質向上を目指していく。

3)新病院建設プロジェクト

・「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為、2025年8月プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」を建設するプロジェクトを進行中。

2023年度では

- ・建設費用の為のファンドレイジング
- ・医療機器メーカーとの協議
- ・病院建物の建築基本計画の策定(日本の設計会社と共に)
- ・建設予定場所の土地の整備
- ・工事のカンボジア施工会社選定
- ・カンボジア政府とのMOU(覚書)締結
- ・建築許可申請の為の図面作成を実施した。

2. 医療学生 奨学生支援活動

新年度の奨学金候補生の選定は終了している為、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医も育成していく。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

2023年度は新病院のリリースをカンボジア国内で行った。他にもFacebookでの動画投稿や広告運用など、また外部のインフルエンサーからのジャパンハートの紹介などに取り組んだことで、Facebookのフォロワー数が6万人を超えた。

2)ファンドレイジング

認知度の高まりを受け、寄付金は24万1,133ドル(昨対比103.99%)と微増した。しかし、企業との接点を新規で開拓することが叶わず、今期は目標としていた金額には届かなかった。しかし、2024年3月にはカンボジア国内の飲料会社主催のチャリティライブの収益から大口寄付が決定するなど、ジャパンハートを知った企業からの問い合わせが増え始めている。

ラオス

1. 医療活動

1) ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第2フェーズとしての活動を開始。甲状腺疾患の専門家たちが集まる「日本内分泌外科学会」とパートナーシップ協定を締結し、活動を強化した。

2023年11月に、第2フェーズにおける第1回の手術活動を実施。その後、2024年1月と3月にも実施し、計29名の手術活動を2023年度内に実施した。うち13名は現地医師が執刀医を実施できた。

現地看護師の教育にも力を入れ、勉強会を4回実施した。

2) 個人診療

2名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。

1名の斜顔裂の患者については、カンボジアにて、日本人医師による手術活動を実施した。

1名の末期がん患者については、定期訪問を行い、緩和ケアを実施した。

3) 小児プロジェクト

政府との覚書が締結完了した。締結式を実施し、実際の手術開始に向けた打ち合わせや、機材の準備などを進めた。

他院より「4名の患者紹介があり、うち2名が治療を希望した。2名について、パートナーシップ協定を締結している九州大学病院小児外科と協同して治療を実施した。

ラオス国内での小児プロジェクト広報のためにラオス全国の県病院、群病院、ヘルスケアセンターへ訪問を実施した。

4) 広報・ファンドレイジング活動

駐在看護師スタッフの地元である福岡のテレビ局(福岡放送)による取材を受け、テレビ放映もされる。同時に、福岡県内で協力者を求めるべく、営業活動を実施した。

地域医療支援・国際緊急救援事業

2023年度は前年度に引き続き、各既存事業の強化・地域医療支援分野での新規事業の立ち上げ・組織体制強化を実施した。また、2024年1月1日の令和6年能登半島地震発生により、2024年度にかけて支援活動を展開している。

1. 事業共通

広報人員を採用予定。事業部として広報的発信の強化を行う。

2. 国際緊急救援事業

1. 組織内部強化

2023年10月より、団体内で「災害対策コアチーム」を組成し、発災時に緊急救援事業部の部署外から5~7名の応援人員を確保する体制を構築した。結果として、令和6年能登半島地震においては、部署メンバーだけではなく、コアチームを中心に発災後迅速な支援活動を実施することが可能となった。

2. 自然災害時緊急救援

a. 人的支援

令和6年能登半島地震を受け、1月3日より初動チームを現地に派遣し、4月20日に至るまで

に合計 7 か所の避難所、1 か所の診療所へ看護師を中心とした医療チーム常駐支援を行ったことに加え、輪島市門前地区においては 15 か所以上の避難所への定期巡回支援を実施した。参加者は医師 8 名、看護師 51 名、ロジスティクス 20 名のべ計 79 名、平均活動日数 11 日間であった。

b. 物的支援

2022 年度に支援企業と共同開発した災害時寄付物資マッチングプラットフォーム「Heart Stock(災害版)」の物資備蓄拠点を、現在の佐賀県・富山県に続き、岡山県にも実装した。能登半島地震においては、富山県内の備蓄物資に加え、岡山県からも広域搬送を行い、1 月 2 日以降の迅速な物的支援に繋がった。

3. iER ボランティア登録制度

a. 新規登録数

各回実地 16 名定員にて開催

・第 11 回研修:7 月 22 日(土)~23 日(日)に東京会場で実施

・第 12 回研修:2 月 10 日(土)~11 日(日)に東京会場で実施

b. 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして計 3 回実施

・医療ステップアップ研修:2023 年 8 月、2024 年 4 月開催

・ロジスティクスステップアップ研修:2023 年 10 月開催

※ロジスティクス研修は、能登半島地震発生に伴い現場活動をもって代替した

4. 国内外ネットワーク作りと強化

a. 自治体・企業・医療機関との協定

厚生労働省傘下の医療支援チーム DMAT 事務局と災害時の連携協定を締結

b. 学会発表

2023 年 2 月日本災害医学会で 1 演題の発表を実施

3. 地域医療支援

1. RIKA Job

1) 派遣者数の増加

2022 年度 40 名(うち研修生 8 名) 2023 年度 48 名(うち研修生 7 名)で、8 名増加。

説明会や個別相談会を予定通りに実施し、また SNS 等を使用した広告にも力を入れた。

2) 病院との関係強化

病院にも積極的に人材集めのための広報に参加してもらえるよう、SNS 配信を強化できるスケジュールを組み、週 4 回各病院情報を共同投稿として配信対応を実施。派遣者のフォローアップに関しては看護部長面談を継続していただき、適宜、オンラインにて派遣検討者とお話しいただく時間を設定するなどの調整をした。

3) 派遣者フォロー

派遣 1 か月後のフォローアップ面談を実施し、不安や改善できる点などの聞き取りを行った。また、終了前にも面談を行っているが、延長率を上げる取り組みとして病院側との情報共有ができなかった例もあるので、次年度の課題とする。

2. 佐賀事務所

伊万里事務所から佐賀市内に事務所を移転し、人員を最大 2 名雇用することで、佐賀県内での緊

II. 事業報告/ 国内

SmileSmilePROJECT

小児がんと向き合うご家族や医療関係者に活動が浸透してきており、依頼件数や協賛企業の問い合わせは年々増加傾向にある。新規スタッフ2名を迎え、多くのニーズに応えることができるよう体勢強化をした一年であった。スタッフの自己研鑽の機会の確保、小児がん拠点病院以外の医療機関との関係構築、ボランティアとして関わる方々の満足度を上げる取り組みを実施した。

1. スタッフ自己研鑽の機会の確保

年々、医療的ケアの必要度が高いお子さまの帯同が増えており、知識や技術のアップデートをすることでより安心な時間をご家族に提供できると考えるため、スタッフには小児がん関連の研修会参加など自己研鑽の機会を積極的に作ってきた。具体的には学会参加の奨励、症例検討会の実施、学会・研修会への参加費用の補助などである。

2. 具体的な活動内容

- ・個別企画を35件、招待イベントを7件、株式会社一休さまで取り扱いのある宿にご家族を招待する企画7件を実施することができた。(いずれも設定目標数を超えている)
- ・事業で関わった小児がんのお子さんご家族は総勢350名であった。
- ・事業に関わったボランティアはのべ人数で225名であった。
- ・旅行に繋がりにくいお問い合わせにも、情報提供や対象となるお子さんとご家族の状況に合わせてできるだけ提案を実施した。

3. 広報活動

- ・一昨年に作成したご家族向け・一般向けパンフレットを JH 全体の講演会でも配布してもらうことで団体の国内事業のひとつとしての認知拡大を促した。
- ・対象となるお子さんが入院中の病院で面談をする際は、医療者への活動紹介を実施し活動認知につなげた。
- ・SSP をきっかけに団体活動全体に関心をもっていただけるようにご家族、ボランティア、支援者への関わりを工夫した。

III. グローバル人材育成事業

グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース

(旧国際看護師・助産師研修)

1) 看護師・助産師の問題解決能力の強化、当事者意識に向けた取り組み

看護師たちが現場で直面する課題や困難に対して、自分ごととして捉え、問題解決していけるよう、思考のワークや、担当者との定期的なフィードバックを重ね、それらの能力強化に取り組んだ。また東京と海外スタッフとのこまめなコミュニケーション・連携に努めることで、人材育成に関してもスムーズな情報共有に繋がっている。

2) コンピテンシーモデルの設定にむけた評価制度

ジャパンハートが目指す看護師の行動特性を言語化し、コンピテンシーモデルを設定したい。その第一歩として、現地人看護師の評価制度の導入に着手した。

3)メディカルチームの発足

これまで看護師・助産師対象に、グローバル看護師・助産師人材開発/実践コースを提供し、人材育成を行っていたが、海外での事業拡大や現地人医療者の育成強化などに伴い、現場で即戦力となる医療者のニーズが高まったこと、また看護師・助産師のみならず、医師やコメディカルも含めてワンチームとして活動することを目的に、メディカルチーム(海外医療現場のために活動するメンバーの総称)を発足した。

4)学会へのブース出展や広報活動の強化

ジャパンハートの認知度向上、医療者の人材獲得を目的に、日本看護学会学術集会への企業ブースのほか、Instagramなどのソーシャルメディアによる医療者の活動レポートや動画の発出など、積極的な広報活動に取り組んだ。

IV. 広報・ファンドレイジング

広報活動

支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1)各種アワード獲得について

- 4月:ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞) 2023 Stop 感染症大賞 最優秀賞受賞
(団体として、主催:一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会)
- 10月:「SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞」医療の部受賞
(団体として、主催:公益財団法人岩佐教育文化財団)
- 11月:令和5年度「千嘉代子賞」受賞
(最高顧問吉岡秀人、主催:公益財団法人ソロプチミスト日本財団)

2)ウェブサイトの運用と情報の充実化

- a) 団体のオウンドメディア(webサイト、各種 SNS 等)のコンテンツの充実
 - ・YouTube コンテンツの充実を図り、毎回ゲストを招いてトークセッションを行う『秀人の部屋』を新規企画として実施したほか、コンテンツ全体の向上として各事業地の動画をさまざまな角度から定期的に発信した。
 - ・LINE の本格配信を開始。今後も定期的に事業地の活動を報告していく場として利用。(現在の登録者数は800人超)
- b) イベント施策への広告に力を入れ、集客を図った。各イベントの参加者は回を重ねるごとに増え、効果を実感出来た。

3)メディアへの露出を強化

メディアとのリレーションシップの強化を図り、特に福岡放送との強い関係を構築。

- a) テレビ番組への出演(2023年度)
 - 6月 :看護師 河野朋子「おはよう日本」出演(NHK)
 - 11月 :看護師 河野朋子「国際報道 2023」出演(NHK BS1)
 - 1月 :JHCMC 院長 医師 神白麻衣子「ニュース 7」コメント出演(NHK)
 - 2月 :看護師 高柳玲香「めんたいワイド」出演(FBS 福岡放送)※その他被災地支援として、複数番組に出演
- b) その他メディアへの出演と掲載
 - 10月:新聞「東京新聞」最高顧問吉岡秀人 取材・掲載
 - 2月 :新聞「朝日小学生新聞」理事長吉岡春菜取材・掲載※その他被災地支援などとして、複数メディアに登場

4)活動レポートの発信

昨年度同様、カンボジア医療事情(特に小児がん)に関するレポートを発信したが、それ以外の発信が出来ていない。

5)AC ジャパン採択決定

ファンドレイジング

1. マンスリーサポーターの増加

WEB 広告について効果のある LP を特定できたので、2023 年度から一つに絞った。(それにより浮いた予算はイベント広告費として使用。)また、メルマガも新病院を押し出した為か、22 年度には新規サポーター数が退会数を約 2 倍上回ることで全体のマンスリーサポーターは増加となっていたが、23 年度は新規 210 名、退会 182 名とその差が少なく、年度開始よりもマンスリーサポーター数の低下を招いた。

2. カンボジア新病院プロジェクト

総額 10 億円の規模を目指していた施策として 8000 万を目標とするクラウドファンディングを実施。結果、ネクストゴールを上回る 1.2 億超となった。

23 年度内の新病院宛寄付額は約 4.4 億(個人:1.4 億強、法人:3 億弱 ※名誉ファウンダーとして 73 名獲得)となり、内訳としては既存支援者からの寄付が多くを占めた。だが、新病院寄付に注力した結果、その他寄付の額は減少傾向となっている。

24 年 1 月 1 日の能登半島地震発災後は、新病院宛の寄付割合が減り、寄付の多くは能登半島支援(国際緊急救援)となった。

3. ふるさと納税の継続

返礼品数の増加は実行できなかったが、当初目標の 1150 万を上回る 1500 万にて着地。

4. 遺贈・相続

日本承継寄付協会の主催する「フリーウィルズキャンペーン」に参加し、遺言書制作の後押しを図る。金融機関への営業活動も開始。

支援者サービス

1. 支援者さまとのコミュニケーションの強化

高額寄付者へのインタビューを実施。ご寄付頂いた理由や他団体と比較した際に何をポイントにしたのか等のヒアリングを行った。

その後のアクションへの落とし込みはできていないが、内部での共有を行うことで、職員のロイヤリティ向上につなげることはできた。

2. 日常業務のクオリティの向上

実業務を行うメンバーも含め定期的な会議の場を設定し、日々の業務の改善や確認に努めた。会議を行うことでチーム内での認識の齟齬も無くなり、個々が課題に感じていたものが解消された。そうした結果、支援者サービス全体としての業務クオリティが向上した。

V. ボランティア事業

1. ボランティア事業

・短長期ボランティア事業の Vision や目的の明確化を行い、可視化する。

・ツアーを年間で最低 6 本は実施。その他、現在設けられている医療者及び、医療学生向け以外のツアーについても実施を検討し、ツアー参加におけるさまざまな付加価値を見出す。

第2号議案

2023年度 決算報告

2023年度 活動計算書

税込表示
(単位：円)

2023年4月1日から2024年3月31日まで

科目	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	予算対比	当初予算額
経常収益					
受取会費	18,080,000	17,236,000		▲ 664,000	17,900,000
受取寄付金	749,368,244	989,137,447	1億円単位の大口2件を含めアジア小児医療センターPJTへの寄附が4億円以上あった。その他も、用途指定なしでの1億円の寄附もあった。	▲ 405,832,553	1,394,970,000
受取助成金等	26,836,170	75,808,555	令和6年能登半島地震の助成金としてコカ・コーラより45百万円、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団より22百万円をいただいた	38,608,555	37,200,000
事業収益	11,522,484	42,841,815	海外長期研修費、海外短期研修費、国内セミナーイベント参加費、海外セミナーイベント参加費、すべて前年を大幅に上回った	20,699,815	22,142,000
その他収益	45,367,102	111,067,135	円安ドル高で海外の外貨預金の評価額上昇による差益96百万円（前年度は43百万円）。その他に受取利息499万円	110,067,135	1,000,000
当期経常収益合計 A	851,174,000	1,236,090,952		▲ 237,121,048	1,473,212,000
経常費用					
【事業費】	612,066,271	569,094,146		▲ 120,430,798	689,524,944
人件費	248,386,107	269,246,570	ミャンマーの人件費が42百万円から67百万円に大巾増加。国内クーデターの影響で現地通貨の価値が暴落したため、全員の給与の支払いをUSドル建て計算方式に変更したため	▲ 36,092,086	305,338,656
顧問・アドバイザー料	739,913	400,000	iER顧問料40万円	0	400,000
業務委託費	6,811,870	23,361,595	アジア小児医療センター基本計画、設計策定の支払い及び営業代行会社に対し、新病院開設ファンドレイジング報酬の支払いが前年より費用が大幅増加した主因	▲ 1,769,405	25,131,000
通信運搬費	21,107,456	4,891,475	前年度発生したiERの活動資材を保管配送するための横浜倉庫の費用1,420万円が今年度はなかった	164,995	4,726,480
医療器具・備品費	2,895,774	5,158,517	前年度より費用が増加した主因はミャンマーの経費が157万円から391万円に増加したため	1,500,837	3,657,680
医療支援費	53,931,878	59,866,311	医療事業拡張による全体的な費用増加	▲ 3,201,834	63,068,145
学業支援費	12,303,113	12,943,992	Dream Train677万円、夢の懸け橋357万円	2,543,992	10,400,000
子ども支援費	17,304,395	6,396,084	DTの食材費は前年まで子ども支援費に含まれていたが、今年度より食材費に計上。今年度子ども支援費に計上された金額はすべてSmile Smileのためのもの	▲ 16,400,396	22,796,480
旅費交通費	36,416,263	46,431,546	コロナ前の活動にほぼ復活	▲ 12,737,439	59,168,985
水道光熱費	7,792,774	9,014,683	カンボジア病院の水道光熱費が前年の626万円から714万円に88万円増加	▲ 147,317	9,162,000
広告宣伝費	12,570,922	13,199,305	前年度とは大きな差はありませんが、予算を大きく下回っている。アジア小児医療センター建設資金を募るための広告が来年度にずれこんだため	▲ 33,274,195	46,473,500
研修費	1,157,881	2,416,452	医療推進ワークショップコンサルタント料208万円（前年は98万円）	936,452	1,480,000
会議費	639,442	931,825	コロナ前の状況（脱ズーム）に戻る過程	▲ 503,200	1,435,025
接待交際費	239,898	279,957		▲ 322,650	602,607
消耗品費	116,323,885	12,967,255	前年度発生したコロナ対策医療用防具の購入代金9150万円は今年度は発生していない	3,046,519	9,920,736
食材費	13,384,993	31,887,387	DTの食材費は前年度まで子ども支援費に計上されていたが今年度から食材費に計上した（1,530万円）	20,387,387	11,500,000
新聞図書費	37,943	46,094		▲ 38,306	84,400
印刷製本費	2,561,688	3,678,279	年次報告書印刷ミスのため再印刷経費発生	572,529	3,105,750
セミナー・イベント開催費	52,948	1,837,274	コロナ終焉による活動再開	▲ 2,963,726	4,801,000
海外スタディツアー開催費	0	0		0	0

工事・修繕費	4,485,490	2,078,849	カンボジア病院116万円(前年比137万円減)、 Dream Train36万円(前年比86万円減)	▲ 2,448,151	4,527,000
賃借料	339,594	638,473	主にミャンマー専門医用カーレンタル料前年度 は9月から7か月分、本年は12ヶ月分	438,473	200,000
地代・家賃	13,450,419	12,498,714		2,222,714	10,276,000
車両費	4,844,971	5,680,571	ミャンマーの経費(車両レンタル)が350万円 から421万円に増加	454,271	5,226,300
保険料	3,091,309	5,157,930	海外旅行傷害保険料増加	2,619,305	2,538,625
諸謝金	264,411	2,697,170	能登震災支援看護師謝礼173万円	2,354,170	343,000
諸会費	345,719	573,142		488,142	85,000
リース料	307,000	0	前年度沖縄濃厚接触者隔離施設支援用レンタル カー24万円、マットレスレンタル6万円、今年 度は0	▲ 210,000	210,000
支払手数料	2,412,091	4,323,008	マンスリーサポーター獲得施策コンサル料(44 万円)、能登震災支援募金コンサル料(40万 円)新たに発生、海外の経費が81万円から145 万円に増加(賃借物件回転手数料等)	▲ 32,127,092	36,450,100
雑費	358,573	12,218		▲ 3,704,257	3,716,475
寄付金支出	0	0		0	0
租税公課	784,991	978,706	iER用自動車購入時の諸税金16万円	278,706	700,000
期首書籍等	1,021,247	810,666			
当期書籍等仕入高	115,500	361,630			
他勘定振替	▲ 102,798	▲ 303,885	贈呈した書籍等の原価を広告宣伝費に振替		
期末書籍等	▲ 810,666	▲ 625,149			
書籍等販売原価	223,283	243,262		243,262	0
減価償却費	26,499,277	29,257,502		▲ 12,742,498	42,000,000

【管理費】	38,853,929	43,715,489		1,024,647	42,690,842
人件費	15,774,735	16,346,862		▲ 1,412,324	17,759,186
業務委託費	3,314,644	3,908,144		968,144	2,940,000
通信運搬費	997,829	945,499		5,499	940,000
水道光熱費	472,698	541,777		▲ 242,223	784,000
旅費交通費	86,004	517,872	パラドックス社員のカンボジアへの出張旅費 (採用サイト作成用の取材・撮影) 34万円	361,872	156,000
広告宣伝費	880,000	1,737,359	パラドックス社による求人広告費143万円	737,359	1,000,000
研修費	0	0		▲ 10,000	10,000
会議費	3,045	21,957		16,957	5,000
接待交際費	0	0		0	0
消耗品費	1,162,879	880,709	パソコン5台購入(40万円)	80,709	800,000
新聞図書費	0	0		0	0
印刷製本費	275,811	495,044	複合機パフォーマンスチャージ	135,044	360,000
工事・修繕費	13,200	0		0	0
賃借料	0	0		0	0
地代・家賃	5,414,070	7,177,386	佐賀事務所前年は9月から7ヶ月分、本年は 12ヶ月(差34万円)、EMハイムレジデンス 新規借入(102万円)、山岸ビルレジデンス新 規借入礼金(15万円)	▲ 613,214	7,790,600
保険料	122,660	42,000		42,000	
租税公課	10,719	12,705		▲ 27,295	40,000
諸会費	139,800	215,800		▲ 69,200	285,000
リース料	34,056	363,000	日立キャピタル複合機再リース料金(3,300円 ×11ヶ月分)	328,944	34,056
支払手数料	9,511,356	10,284,045	ROBOT PAYMENTカード決済手数料838万 円、その他は海外送金・振込手数料等	584,045	9,700,000
雑費	63,560	78,370		▲ 8,630	87,000
雑損失	98	0		0	0
減価償却費	576,765	146,960	東京事務所パーティションの減価償却費	146,960	0
為替差損	0	0		0	0
租税(消費税)	0	0		0	0
当期経常費用合計 B	650,920,200	612,809,635		▲ 119,406,151	732,215,786

当期経常増減額 A - B	200,253,800	623,281,317		▲ 117,714,897	740,996,214
---------------	-------------	-------------	--	---------------	-------------

経常外収益

【経常外収益】					
固定資産売却益					
前期損益修正益	5,251,885				

経常外費用

【経常外費用】					
----------------	--	--	--	--	--

前期損益修正損	6,417,623			
過年度受取参加費返金		900,000		
過年度受取助成金返金	3,367,183			
税引前当期正味財産増減額	195,720,879	622,381,317		
法人税・住民税・事業税	100,000	151,000		
当期正味財産増減額	195,620,879	622,230,317		
前期繰越正味財産額	1,346,452,551	1,542,073,430		
次期繰越正味財産額	1,542,073,430	2,164,303,747		

貸借対照表

2024年3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流動資産】	【 1,822,547,742 】	【流動負債】	【 34,322,447 】
現金及び預金	1,795,121,226	未払金	33,780,483
書籍	609,459	預り金	390,964
商品	15,690	未払法人税等	151,000
前払費用	7,841,821		
未収金	17,560,965		
立替金	202,697		
仮払金	1,195,884		
【固定資産】	【 376,078,452 】		
(有形固定資産)	(326,805,969)	負債の部合計	34,322,447
建物	217,006,852	正味財産の部	
建物付属設備	34,067,342		
構築物	9,544,523		
車両運搬具	7,291,016	前期繰越正味財産	1,542,073,430
工具器具備品	26,046,566		
土地	406,029	当期正味財産増減額	622,230,317
建設仮勘定	32,443,641		
(無形固定資産)	(16,613,184)		
ミャンマー土地賃借権	16,613,184		
(投資その他の資産)	(32,659,299)		
投資有価証券	30,000,000		
敷金	2,659,299	正味財産の部合計	2,164,303,747
資産の部合計	2,198,626,194	負債及び正味財産の部合計	2,198,626,194

2024年3月期 計算書類の注記
特定非営利活動法人 ジャパンハート

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
 ① 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 最終仕入原価法を採用しています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 ① 有形固定資産
 定率法を採用しています。
- (3) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
海外土地	406,029	0	0	406,029	0	406,029
海外建物	252,261,611	1,368,137	0	253,619,748	36,612,896	217,006,852
国内建物附属設備	440,000	0	0	440,000	428,633	11,367
海外建物附属設備	42,633,501	6,274,435	0	47,907,936	13,851,961	34,055,975
海外構築物	14,622,066	0	0	14,622,066	5,077,543	9,544,523
国内車輛運搬具		4,977,111		4,977,111	138,114	4,838,997
海外車輛運搬具	27,138,904		0	27,138,904	24,686,885	2,452,019
国内什器備品	370,905	137,830	0	508,735	392,493	116,242
海外什器備品	126,699,920	17,690,224	0	144,390,144	118,459,820	25,930,324
一括償却資産	715,214	0	0	715,214	715,214	0
建設仮勘定	4,855,308	32,443,641	4,855,308	32,443,641	0	32,443,641
無形固定資産						
インターネット賃借権	22,610,708			22,610,708	6,997,524	16,613,184
ソフトウェア	1,113,000			1,113,000	1,113,000	0
投資その他の資産						
敷金	2,253,558	435,741	30,000	2,659,299	0	2,659,299
保証金	743,820			743,820	743,820	0
合計	496,854,544	62,327,119	4,885,308	554,296,355	208,217,903	346,078,452

令和5年度 財産目録

令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人 ジャパンハート
(単位：円)

科 目	金 額
I. 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	1,795,121,226
手元現金	15,811,726
三菱UFJ銀行普通預金	146,762,795
三菱UFJ銀行普通預金	2,613,249
三井住友銀行普通預金	95,501,741
朝日信用金庫普通預金	30,368
佐賀銀行普通預金	220,388
大和ネクスト銀行 円普通預金	699
ゆうちょ銀行普通預金	2,590,334
ゆうちょ銀行当座預金	499,431,229
ゆうちょ銀行当座預金	7,218,580
ゆうちょ銀行当座預金	145,515,811
ゆうちょ銀行当座預金	3,474,478
朝日信用金庫定期預金	10,000,000
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.1	21,639,656
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.2	11,753,660
Foreign Trade Bank 6ヶ月 定期預金 No.3	13,626,900
ABA BANK 1年	45,423,000
Foreign Trade Bank of Cambodia ドル預金	90,760,432
Canadia Bank/of Cambodia	1,514
ABA Bank Payroll Cambodia	3,935,969
ABA Bank Cambodia	39,699,003
ACLEDA Bank Cambodia	8,715,677
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	9
三井住友銀行 ドル預金	21,782,646
大和ネクスト銀行 外貨定期預金	259,146,893
BCEL \$ ラオス	2,713,373
BCEL KIP ラオス	538,965
BCEL KIP 寄付用ラオス	218,340
Myanmar Foreign Trade Bank USD ミャンマー	0
Myanmar Economic/Bank	3,834,956
KANBAWZA BANK USD ミャンマー	14,457
Kasikorn Bank(THB) タイ	0
BCEL KIP 寄付用	0
WING Cambodia	168,066
ASIAWEILUY Cambodia	110,438
ASIAWEILUY QR	2,135,035
KANBAWZA BANK MMK	23,648
KANBAWZA BANK MMK SC	57,869
Foreign Trade Bank Cambodia	90,108
セントラル短資FX㈱ 円預金	109,290,348
セントラル短資FX㈱ ドル預金	3,028,200
Myanmar Foreign Trade Bank JH	15,207
ミャンマー国営銀行	0
SATHAPANA	94,582
SATHAPANA F 1	75,705,000
SATHAPANA F 2	151,410,000
KBZ_MMK_DT	721
CB_MMK_SC	7,215
CB_MMK_NC	7,211
AYA_MMK_S	730
棚卸資産	
書籍	609,459
商品	15,690
前払費用	
海外家賃等	7,841,821
立替金	
社会保険料等立替金	202,697
仮払金	
海外事業仮払金等	1,195,884
未収金	
医療支援活動に係る費用弁償代等	0
3月 決済分寄附金	13,983,031
ツアー企画料	3,577,934
流 動 資 産 合 計	1,822,547,742

2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物		
ミャンマースタッフ宿舍	3,853,052	
ミャンマースタッフ宿舍 追加工事	302,272	
カンボジア病院建設	33,507,110	
カンボジア小児科医療センター	63,893,554	
カンボジア病院 外来待合室	1,314,509	
カンボジア病院 スタッフハウス	31,275,218	
カンボジア病院 スタッフハウス 階段/手摺工事	433,274	
カンボジア病院 AAMC病院給食センター	28,153,677	
カンボジア人 スタッフ新宿舍	8,807,581	
カンボジア人 スタッフ新宿舍 1階追加工事	2,210,216	
カンボジア病院 研修棟	41,923,366	
グムサイ病院 甲状腺疾患診療用建物	1,333,023	
建物付属設備		
カンボジア病院 変圧器等	1,774,717	
カンボジア病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	416,911	
カンボジア病院 患者用導線屋根	169,437	
カンボジア病院 変圧器(増設)	2,445,809	
カンボジア病院 AAMC病院給食センター 厨房機器一式	15,376,851	
カンボジア病院 電気ケーブル Phase1.2	1,006,279	
カンボジア病院 電力制御システム Phase1.2ケーブル	220,508	
カンボジア病院 発電機室	647,549	
カンボジア病院 女子寮屋上 断熱材設置工事	194,245	
カンボジア病院 宿舎No.2 排気ダクト設置工事	53,266	
カンボジア病院 病室改造工事	593,525	
カンボジア病院 洗濯場改造工事	491,957	
カンボジア病院 トイレ改造工事 Phase2	2,500,636	
カンボジア病院 AVR発電機 3P 400KVA	2,785,641	
カンボジア病院 レントゲン室 内装工事	4,790,946	
東京事務局 パーティション	11,367	
DT図書館 フローリング内装改造費	270,319	
発電機 配電施設 ミャンマー専門医	317,379	
構築物		
カンボジア病院 舗装工事等	474,749	
カンボジア病院 浄化槽埋設工事・掘削工事	1,201,425	
カンボジア病院 外来待合室前 舗装工事	199,200	
カンボジア病院 貯水タンク4台設置工事	403,347	
カンボジア小児病棟前 コンクリート道路工事	199,001	
カンボジア病院 スタッフハウス 給水タンク	256,249	
カンボジア病院 発電機 Phase1.2 停電時使用	3,030,189	
カンボジア病院 駐車場工事	158,613	
カンボジア病院 貯水タンク5,000L	76,553	
カンボジア病院 排水管の設置(病院からの排水)	201,640	
カンボジア病院 排水管の設置(病院Phase1前)	215,810	
カンボジア病院 phase1 舗装道路	793,174	
カンボジア病院 浄水器 バイブ追加設置工事 behind phase2	113,916	
カンボジア病院 浄水器 behind phase2	468,305	
DREAM Train 太陽光発電システム装置	704,607	
DREAM Train フェンス (図書館裏から事務所裏)	282,285	
DREAM Train フェンス (事務所裏から女子棟裏)	107,590	
DREAM Train フェンス (フットボール場)	282,426	
DREAM Train 貯水タンク 図書館設置	130,317	
DREAM Train フェンス (隣接した別の養育施設との間)	245,127	
車輛運搬具		
車両 11台	7,291,016	
工具器具備品		
医療器具等	26,046,566	
土地		
ミャンマー	406,029	
建設仮勘定		
カンボジア病院	32,443,641	
有形固定資産計	326,805,969	
(2) 無形固定資産		
借地権		
ミャンマー土地賃借権	16,613,184	
無形固定資産計	16,613,184	
(3) 投資その他の資産		
投資有価証券	30,000,000	
敷金		
東京事務所	354,200	
佐賀県佐賀市 川上リゾートA号室	89,000	
カンボジア事務所	748,902	
カンボジア病院 宿舍	676,080	
カンボジア病院 宿舍	267,096	
ラオス事務所	88,280	
台東区小島 宿舍	86,000	
ミャンマー診療所	106,741	
富山県射水市 宿舍	98,000	
台東区蔵前 宿舍	145,000	
長期前払費用		
台東区寿事務所 保証金・礼金等	0	
投資その他の資産計	32,659,299	
固定資産合計		376,078,452
資産合計		2,198,626,194

II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
給与・医療支援活動に係る費用等	33,780,483		
前受金			
長期研修参加費	0		
預り金			
源泉所得税等	390,964		
未払法人税等			
2023年度法人税住民税事業税等	151,000		
流動負債合計		34,322,447	
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	
負債合計			34,322,447
正味財産			2,164,303,747

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人 ジャパンハートの2023年（令和5年）4月1日から2024年（令和6年）3月31日までの第16期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2024年（令和6年）5月29日

特定非営利活動法人 ジャパンハート

監事 大橋秀夫 

I. 事業計画 / 海外(オペレーショングループ)

海外事業セクション

A. 東京オフィス

1. 事業推進

- ・海外事業全体における中長期計画の再策定を実施。
- ・カンボジア: 新病院建設及び、開院に向けた事業進行や、支援企業獲得などの各種調整(継続)
- ・ミャンマー: ミャンマー国内情勢を考慮しながらの医療活動の展開(継続)
- ・ラオス: 小児新プロジェクトの開始に向けた伴走支援(継続)

2. 海外での資金調達・認知度向上

- ・海外での従業員寄付プラットフォームシステムの寄付金額増加
- ・「ASEAN Prize 2024」応募 その他応募可能なアワードの調査とチャレンジ
- ・日本以外の国での資金調達計画について調査活動の後、計画、一部施策実施まで

B. ミャンマーオフィス

1. 医療活動

1) ワツチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・ワツチェ慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を含む医療活動を継続すると共に、ミャンマー人医療者のみで実施できる内容を増やしていく。
- ・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上を目指し、連携病院等でのトレーニング体制を整備する。
- ・「Rainbow Bridge Clinic」の広報を行い、認知度アップおよび受診患者数の増加を目指す。
- ・モバイルクリニック(遠隔地往診)をミャンマー各地で実施し、医療アクセスの向上を図る。

2) その他の医療活動

- ・小児外科・小児心臓・口唇口蓋裂の専門医療事業を継続する。
- ・医療崩壊によって医療を受けられなくなっている子どもたちを救うための、ジャパンハートとして新たな小児医療の拠点の立ち上げを目指す。

2. ミャンマー医療人育成事業

引き続き新倉会の協力により、奨学生6名(医学生3名・看護学生3名)の支援を行うと共に、新たな奨学の採用を進める。

3. 社会福祉関係

1) 養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・児童の夢や目標の幅を大きく広げるため、DT スカラシップ制度の対象者となる 15 名を選出し、私立学校への転入を行う。同時に、スカラシップ生の支援者獲得へ向け、ミャンマー国内での企業・個人への働きかけを行う。
- ・DT 施設運営委員会(生徒会)の役割を拡大し、児童自治の施設を目指す。
- ・2025 年度秋の Dream Train 新棟建設の着工を目指し、外部団体と連携し基本計画・設計・ファンドレイジングを進める。

2)ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続する。
- ・日本人の医療マッサージの専門家を招聘しての特別講義を実施してマッサージ技術向上を図る。

3)サイクロン孤児支援活動

3名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

C. カンボジアオフィス

1. 医療活動

1)ジャパンハートこども医療センター

2025年の新病院建設を見据え、今年はカンボジア現地の医療スタッフの育成、看護師の採用強化、患者数の増加を推進していく。

医療スタッフの教育

- ・2025年の新病院の建設、そしてカンボジア人スタッフが自立して医療活動を継続していくために、教育体制の強化に努める。特に、外部研修や勉強会の定期的な開催。また、看護部内でのクリニカルラダーの策定などよりスタッフが明確にスキルを向上させていくための体制を構築していく。

看護師の採用強化

- ・2025年に新病院の開院が控えているが、現在の看護師数では十分ではないため、今期カンボジア人看護師の採用をより強化していく。また、現地スタッフの育成やモバイル活動を推進するために、日本人看護師の採用も強化していく。

小児患者数の増加

- ・2024年度は小児外来患者数を5,000人目標とし、昨年度の140%増を目指す。Facebookでの広報に注力するだけでなく、手術受け入れも促進していく。また、手術待ち患者だけが增える状況を改善し、患者が増加しても手術待ち患者が溜まらない仕組みも合わせて構築していく。

2)提携病院での活動

2024年度はクロツチュマー病院、チャムカルー病院をメインに手術活動を実施していく。提携病院のスタッフが自立して、ヘルニアや虫垂炎、陰嚢水腫などの手術が行えるように育成することを目標に活動を継続していく。年間で手術活動は合計4回以上、一人っ子での看護師の派遣などもこれまで通り継続する。なお、モバイル活動と並行して、新たな活動ニーズの探索、それを推進するための人材の採用を進めていく。

3)新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為、2025年8月プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」を建設するプロジェクトを進行中。

2024年度では、

- ・建設費用の為のファンドレイジング(継続/日本だけではなくカンボジア国内でも促進する)
- ・医療機器メーカーとの協議(継続)
- ・工事のカンボジア施工会社契約
- ・カンボジア政府とのMOU(覚書)締結
- ・建築許可申請の為の各省庁との協議
- ・工事開始
- ・人材採用計画
- ・そのほか運営に係る各種調整

を実施する。

2. 医療学生 奨学生支援活動

新年度の奨学金候補生の選定は終了している為、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、

ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

2024 年度は Facebook のフォロワー数 8 万人(前年対比 128%)を目指す。そのためにカンボジア人広報の採用を行い、現地での広報業務の推進、インフルエンサーやメディアとの連携維持に取り組み、国内での認知度向上に努める。

2) ファンドレイジング

2024 年度は 40 万ドル(前年度対比 140%)の寄付を目指し、主に以下の施策に取り組み寄付獲得につなげていく。

- ・既存寄付企業への関係構築体制を確立し、リピートでの寄付を目指していく。年に最低一回は大口寄付企業へ活動報告のために訪問し、寄付獲得につなげていく。
- ・新病院の寄付プランを確立し、Facebook での周知や企業への訪問によって、魅力付けしていく。
- ・リレーションを構築できる会合への訪問やつながりのある企業からの紹介などを通じて、新規企業の開拓に努める。

ラオスオフィス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第 2 フェーズについて、内分泌外科学会と引き続き連携し、同学会所属の医師による指導協力を得ながら、手術活動を 4 回/年実施する。また、術前・術後診察の指導を 4 回/年実施する。現地医師の執刀数を増加させ、手技を向上させる。

甲状腺患者の受け入れを病院が自立して行えるように体制構築の支援を行う。

2)個人診療

2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。

斜顔裂の患者については、年 2 回の定期訪問を行う。

末期がんの患者については、緩和ケアの一環として外出支援も行う。

3)小児プロジェクト

対象疾患の患者をビエンチャンへ誘致するため、地方都市の病院やヘルスケアセンターでの広報活動を引き続き実施する。

手術活動の実施に向け、機材の準備や、パートナーである子ども病院の医師・看護師への研修を行う。患者の受け入れ体制の構築を支援する。

4)広報・ファンドレイジング活動

ラオス国内での企業や個人からの寄附獲得が困難であるため、周辺の東南アジア諸国で協力者を求めるべく広報活動を行う。駐在看護師スタッフの地元である福岡県のバンコク事務所、ならびに東南アジアに進出している福岡県企業を訪問し、ラオス事業の認知度向上を図る。

II. 事業計画/ 国内(オペレーショングループ)

災害対策・支援プロジェクトセクション

2024 年度は、2025 年 7 月に大規模災害が発生することを想定の上、支援活動だけでなく団体の運営継続を念頭に体制強化を実施していく。

1. 組織内部強化

最低 3 名のロジスティクス要員の採用と、業務委託契約などを活用した研修など現場活動以外の運営

安定化

2. 自然災害時緊急救援

a. 人的支援

- ・令和6年能登半島地震に関しては、継続して医療チームによる仮設住宅巡回支援等を展開予定
- ・緊急時の災害内容に合わせた初動持参備品等の整備と内容向上
- ・海外活動地における支援訓練の企画と実施を予定

b. 物的支援

富山、佐賀、岡山の物資備蓄拠点を強化。特に岡山については、簡易な事務所機能を併設する予定。また富山においては、東京事務局職員が避難先として中期滞在出来る設備を実装予定

3. iER ボランティア登録制度

a. 新規登録数

各回実地 20 名にて開催予定

- ・第 13 回研修:8 月 10 日(土)~11 日(日)に東京会場で開催予定
- ・第 12 回研修:2025 年 1 月開催予定

b. 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年 2 回(計 4 回)実施予定

- ・医療ステップアップ研修:2024 年4月、2024年8月頃開催予定
- ・ロジスティクスステップアップ研修:2024 年 10 月、2023 年 3 月開催予定

4. 国内外ネットワーク作りと強化

a. 自治体・企業・医療機関との協定

平時の体制構築として、有事の際の協働先の拡大を予定

物的支援だけでなく、広報面でメディア等外部との連携を強化

b. 学会発表

2025年3月日本災害医学会での発表を予定

5. 佐賀事務所

佐賀市大和から大財に事務所を移転し、人員を最大 2 名雇用することで、佐賀県内での緊急救援事業拠点強化を実施予定

SmileSmilePROJECT

小児がんと向き合うご家族や医療関係者に活動を知っていただけるようになり、重症度の高いお子さんからの依頼が年々増加傾向にある。医療的な理由でご依頼をお断りすることは今までなく、スタッフは誇りを持って自分たちにできる支援を模索しながら活動をしてきている。

今年度も小児がんと向き合う子どもたち、ご家族、医療者、サポーター、スタッフそれぞれが生まれてきてよかったと思える世界に貢献できるよう活動をしていきたい。

また、自然災害の頻度が増えている昨今に対応するため、付き添い中の災害を想定し部署内での災害時対応マニュアルを作成する。

また、引き続きスタッフの自己研鑽の機会を確保し、知識と技術に裏付けされた質の高い活動を提供することを目指したい。

新人スタッフ 2 名に対しては海外の活動現場に参加する機会を提供し、団体全体の活動に触れること、特にカンボジアでの小児がん臨床に触れる機会を作りたい。

1. 具体的な活動内容

- ・個別企画のお問い合わせ 100 件、40 件実施を目指す。

- ・招待企画は 16 件実施を目指す。
- ・ボランティア説明会を定期開催し、250 名の登録数を目指す。
- ・ボランティアの方々の満足度調査を実施し、結果に基づく効果的な施策を実施する。

2. 人材強化

- ・スタッフの学習支援、キャリア形成支援
- ・新規看護師1名の採用

3. 広報活動

- ・活動自体の正しい認知、活用方法を医療機関に知っていただける広報活動を実施する。
- ・SSP をきっかけに団体全体に関心を持っていただける講演会・関わりを積極的に実施する。

4. 災害対応

- ・ご家族に同行する旅行中に発生する災害に備え災害対応マニュアルを作成する
- ・スタッフの身を守る初期装備をそろえる

Ⅲ. マーケティンググループ

広報

1. 支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

シンクロ様に協力いただき、マーケティンググループ体制の強化と再構築。「寄付の最大化」を目指し、施策を打っていく。

1) 各種アワードへの応募

今年度も各種アワードへの応募を継続し、団体の社会価値向上に努めていく。

2) ウェブサイト・オウンドメディアの運用

定期的な情報発信を行い、支援者のロイヤリティ向上を図る。また、AC ジャパンの広告の開始される 7 月 1 日に向け、オウンドメディア・団体 SNS の変更を図り、その効果を最大化できる運用を行う。

営業

1. 個人大口支援者の獲得

寄付単価の増額を図っていくと共に、これまで未開拓層であった大口支援者の新規開拓に力を入れる。具体的には高所得者層への DM でのアプローチをはじめ、専任メンバーを採用し、セールス方法の構築・マニュアル化を行うことで効果測定と結果に繋げていくことで安定的に 10 億を超える寄付額を集められる団体の基礎作りを行う。

2. カンボジア新病院プロジェクト

個人・法人共に昨年の新病院宛寄付額を上回る額を目標に設置し、これまで以上に積極的なアプローチをしなければならない。個人としては大口開拓の一環としても新病院寄付も促進していき、法人では過去寄付層の洗い出し、また、外部委託にて新規開拓を実施する。

3. こころの花束

昨今の SDGs の高まりもあってか、企業からのニーズが増えている。この流れを利用しこころの花束の仕組みをマニュアル化することで、従来同期間で一定数しか受けられなかったものを制限なく受けられる仕組みを構築する。

4. ふるさと納税の強化

昨年度比で約3倍となる 5000 万円の獲得を目指し、施策を打つ。

5. 遺贈・相続

団体オウンドメディアでの情報充実化、土業・金融機関への営業拡大を図る。個人大口支援者の獲得に向け、層を絞った情報提供も実施していく。

IV. アドミニストレーショングループ(管理・組織・人材)

ヒューマンリソース(人事・採用・組織)

1. 採用活動

- ・採用計画を再設計し、優先順位を明確にした採用活動を展開する。
- ・採用戦略を立て直し、獲得パターンを明確にする。
- ・新卒採用活動の継続と、入職後研修制度の設計を実施。入職前インターンや内定式を通じた研修も実施。

2. 人事・組織

- ・人事評価制度の運用開始。
- ・ロイヤリティ向上に向けた施策を展開(キャリア面談の実施。内部研修会等のイベント)

管理(総務・労務・経理)

1. 労務・総務管理

- ・クラウドサービスの導入。職員の情報や勤怠情報を一元管理する。
- ・フレックスタイム制度を全体的に導入。

2. 経理

- ・経費精算システムを導入(変更)し、円滑な運用を行う。(より適切なワークフローを設定し)内部統制の強化、業務の効率化、申請者の負担削減等を図る。
- ・経営資源の状況の把握と管理を通じて、企業経営の意思決定に必要とする情報を適時に経営陣に提供する。

カスタマーリレーション

1. 特典の見直し

マンスリー、会員、Dream Train などの里親様など各プログラムの支援者層の分析を行った後、現状の特典の満足度調査を実施する。その結果に応じて各特典の見直しを行い、最終的には既存支援者のロイヤリティ向上に向けたアクションを実施する。

2. Japan Heart 部の活動活性化

Japan Heart 部の参加者分析や目指すビジョンの再確認を行い、部の活動活性化を目指す。

3. 支援者サービス実務の質の向上

支援者サービス実業務の洗い出しと整理し、作業マニュアルを作成することで業務効率の改善と精度向上を目指す。また、領収書発送など寄付者様との接点も定期的に発生することから、イベントの周知など寄付頂いた方が継続的にジャパンハートと繋がりを持ち続けられる機会の創出に取り組む。

メディカルヒューマンリソース(医療人材採用・育成、地域医療支援)

1. メディカルチーム

1)メディカルチームの人材獲得

ジャパンハートの海外の活動地のニーズに合わせた医師、看護師、助産師、コメディカルの獲得を目指す。現地人の成長に伴う、日本人医療者に求められる役割の変化に対応するために、現地での課題やタスクを洗い出し言語化することで、それらを自分事としてとらえ解決のために行動してくれる人材を集める。そのため

に、各国の医療者との情報連携を密に行うことをより強化する。また、web サイトや SNS、学会やイベント、説明会などの広報活動は引き続き強化する。

2)既存人材の強化

カンボジアの現地人看護師向けの教育ラダーの作成をサポートし、高度化する医療現場で働く看護師の基本的な知識や技術が安定して提供できるシステムを構築する。そして、ラダー評価のための評価基準も作成し、将来的にジャパンハート医療者のコンピテンシーモデルへとつなげていく。また、各国の方針に合った人材を獲得しつつも、メディカルチームメンバーが強みを発揮できる事業展開の提案やサポートをする。

3)ボランティア事業

・医療短期ボランティア:海外活動地のニーズ変化に伴い、受け入れ方法について見直しを実施する。またメディカルチームの人材獲得につなげていく仕組みを構築する。

・看護師・学生ツアー:看護師ツアーは年間10本程度の実施を目指す。また学生ツアーは引き続き夏・春に実施する。また継続的な受け入れができる仕組みの構築と、特に看護師ツアーからメディカルチームの人材獲得に繋げる働きかけを行う。

2. RIKA Job

1)派遣者数の増加

昨年度同様、各病院から取り寄せた必要看護師員数を適宜アップデートしつつ、派遣者の充足を目指す。そのための募集強化として、以下のような施策を実施。

- ・HP のリニューアルにより、各病院の魅力を引き出し、それぞれの病院の差別化の可視化を図る。
- ・派遣者へのアンケートの実施にて、より多くの看護師の声を体験談として SNS や体験レポートとして掲載
- ・RIKA Job 説明会を年4回実施。
- ・RIKA Job 個別相談会の適宜開催。

2)病院との協働と条件整理

- ・病院側との定期的な情報共有と広報協力の依頼継続。
- ・雇用条件はじめ、柔軟な働き方の提案による、様々な年齢層の看護師への参加を促すための条件整理。

3)派遣者フォロー

- ・メディカルチーム:MHR 内での連携のもと、病院活動期間の充足を図るとともに、海外での医療活動終了後の国内の働き場としての候補となるよう情報共有を強化する。
- ・RIKA Job 派遣者:派遣1か月ごと終了付きのフォロー面談の実施にて、緊張や不安の軽減に努めるとともに、同病院または離島ホッピングにて派遣期間延長につなげるための派遣者とのコミュニケーションの機会を創出していく。

4)災害支援スキームの整理

- ・協働できる病院数の拡大。
- ・病院にとっても負担なく支援(派遣)するための派遣内容の整理。

第4号議案 2024年度 活動予算書（案）

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額(税込)	前年度決算額(税込)
経常収益		
受取会費	17,500,000	17,236,000
受取寄附金	1,180,000,000	989,137,447
受取助成金等	11,300,000	75,808,555
事業収益	12,010,000	42,841,815
その他収益	0	111,067,135
当期経常収益合計 A	1,220,810,000	1,236,090,952
経常費用		
【事業費】	887,460,783	569,094,146
人件費	386,105,575	269,246,570
顧問・アドバイザー料	600,000	400,000
業務委託費	15,408,810	23,361,595
旅費交通費	62,628,039	46,431,546
広告宣伝費	49,685,000	13,199,305
医療器具・備品費	33,536,250	5,158,517
医療支援費	52,089,029	59,866,311
医療資材費	22,610,030	
医薬品	36,237,131	※前期は医療支援費 に含めて計上
検査費	15,606,272	
患者物品購入費	580,000	
消耗品費	18,125,604	12,967,255
寄付受贈	0	
学業支援費	18,251,319	12,943,992
子ども支援費	8,000,000	6,396,084
食材費	32,325,352	31,887,387
研修費	3,228,000	2,416,452
医療者育成費	260,000	0
寄付金支出	0	0
水道光熱費	9,359,371	9,014,683
地代・家賃	26,405,900	12,498,714
海外スタッフツアー開催費	0	0
セミナー・イベント開催費	19,041,000	1,837,274
通信運搬費	6,706,660	4,891,475
リース料	0	0
賃借料	2,595,014	638,473
車両費	3,899,000	5,680,571
工事・修繕費	3,527,682	2,078,849
保険料	13,686,214	5,157,930
会議費	1,885,200	931,825
接待交際費	627,400	279,957

諸謝金	192,000	2,697,170
諸会費	569,333	573,142
新聞図書費	476,450	46,094
印刷製本費	3,089,139	3,678,279
雑費	237,975	12,218
支払手数料	1,890,976	4,323,008
租税公課	800,000	978,706
為替差損	0	0
期首書籍	0	810,666
当期書籍仕入高	0	361,630
期末書籍	0	(625,149)
他勘定振替	0	(303,885)
減価償却費	37,195,058	29,257,502
当期商品仕入高	0	0
【管理費】	33,497,058	43,715,489
人件費	8,836,058	16,346,862
業務委託費	3,698,000	3,908,144
通信運搬費	1,160,000	945,499
諸謝金	0	
水道光熱費	612,000	541,777
旅費交通費	120,000	517,872
研修費	10,000	0
会議費	15,000	21,957
接待交際費	0	0
消耗品費	830,000	880,709
印刷製本費	480,000	495,044
工事・修繕費	0	0
賃借料	0	0
地代・家賃	7,100,000	7,177,386
租税公課	20,000	12,705
諸会費	336,000	215,800
リース料	396,000	363,000
支払手数料	9,700,000	10,284,045
新聞図書費	0	0
車両費	0	
保険料	22,000	42,000
慶弔費	0	
広告宣伝費	0	1,737,359
雑費	92,000	78,370
減価償却費	70,000	146,960
為替差損	0	0
雑損失	0	0
当期經常支出合計 B	920,957,841	612,809,635
当期經常増減額 A-B	299,852,159	623,281,317

第5号議案

役員改選

新役員候補者

(敬称略)

理事(4名)

理事 吉岡 春菜 (よしおか はるな) (重任)

理事 神白 麻衣子 (こうじろ まいこ) (重任)

理事 西井 敏恭 (にしい としやす) (重任)

理事 榊 淳 (さかき じゅん) (重任)

監事(1名)

監事 大橋 秀夫 (おおはし ひでお) (重任)